

令和2年度  
小・義務教育・特別支援学校  
若年教員研修1年目 第3回

---

## 教科等の学習指導Ⅱ（国語科）

---

配付資料



福岡県教育センター

0 1 共創しよう!  
教育の未来

Produce from 0 / Fukuoka Prefectural Education Center

## 1. 小学校国語科の「目標」と「内容」

国語科において育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されています。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』において、国語科の目標が次のように示されています。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。  
「知識及び技能」
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。  
「思考力、判断力、表現力等」
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。  
「学びに向かう力、人間性等」

国語科の目標は、下線部に示される「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」を育むことです。つまり、国語科において育成を目指す「資質・能力」とは、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」のことです。そのためには、「言葉による見方・考え方」を働かせること、「言語活動」を設定することが必要とされています。

〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕は次の内容から構成されています。

〔知識及び技能〕



〔思考力、判断力、表現力等〕

- |                     |             |
|---------------------|-------------|
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | A 話すこと・聞くこと |
| (2) 情報の扱い方に関する事項    | B 書くこと      |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項  | C 読むこと      |

国語で理解したり表現したりする様々な場面の中で生きて働く「知識及び技能」として身に付けるために、思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが求められています。

## 2. 「言葉による見方・考え方」を働かせる

国語科の学習対象は、「言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのもの」です。そこで、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言語活動を通して、資質・能力の育成を図ります。

## 「言葉による見方・考え方」を働かせるとは

学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。つまり、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味

学習対象が「言葉そのもの」である国語科においては、「言葉による見方・考え方」を働かせなければ、資質・能力の育成はありません。また、「言葉による見方・考え方」を働かせるためには「言語活動」の設定が必要となります。

### 3. 「言語活動」の充実

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』のなかで、言語活動に関しては、次のような内容が示されています。

#### 「言語活動の充実」とは

- ・「言語活動」は、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に不可欠です。
- ・「言語活動」を通して、資質・能力の育成を図っていきます。
- ・質の高い言語活動（質の高い学び）を目指すため、各学校で「言語活動」を創意工夫することが求められています。

また、各学校の創意工夫により授業改善が行われるようにする観点から、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」のそれぞれにおいて、言語活動の種類ごとにまとめた形で、言語活動例が示されています。

#### 【例：読むこと】

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
言語活動の種類 (言語活動例)	ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。  イ 読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。  ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。  イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする活動。  ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。  イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。  ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

国語科の授業においては、言語活動を意図的に設定することで、児童が言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現する力を育てていきます。また、言語活動を充実させることは、主体的・対話的で深い学びの実現に向かいます。

#### 4. 「主体的・対話的で深い学び」

国語科における主体的・対話的で深い学びについては、「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」において、次のように示されています。

- 1 指導計画作成上の配慮事項
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する配慮事項
- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

「主体的・対話的で深い学び」とは

児童の資質・能力の育成のために、「言葉による見方・考え方」を働かせ、「言語活動」を通して、質の高い学びを実現すること。



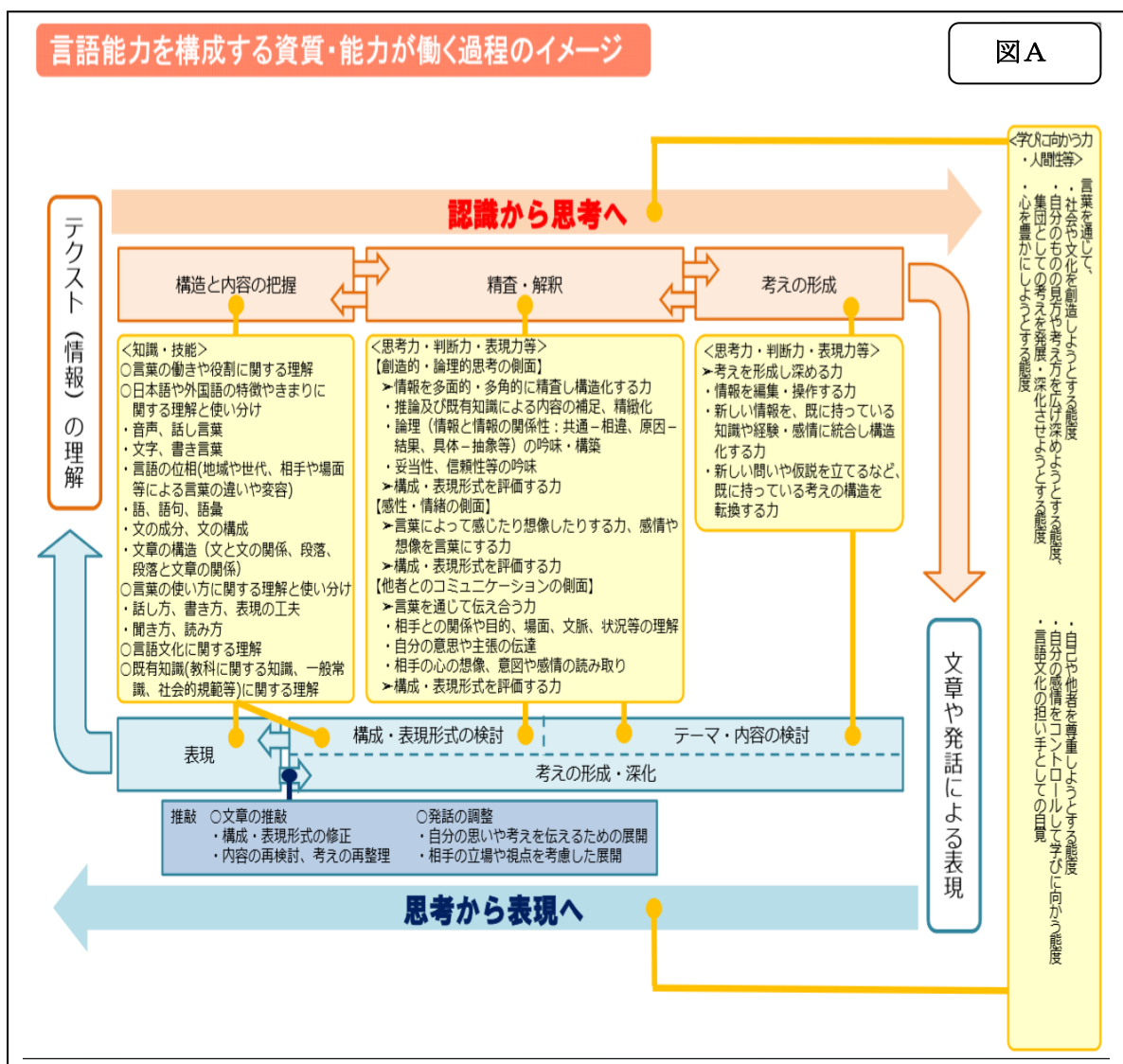
国語科では、「主体的・対話的で深い学び」となる言語活動を設定することと、そのことを通して、児童が言葉による見方・考え方を働かせることが、目指す資質・能力の育成には不可欠です。

## 5. 学習過程の明確化・「考えの形成」の重視

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』において、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるように内容が改善されています。その一つとして、**学習過程の明確化**、「**考えの形成**」の重視が挙げられています。

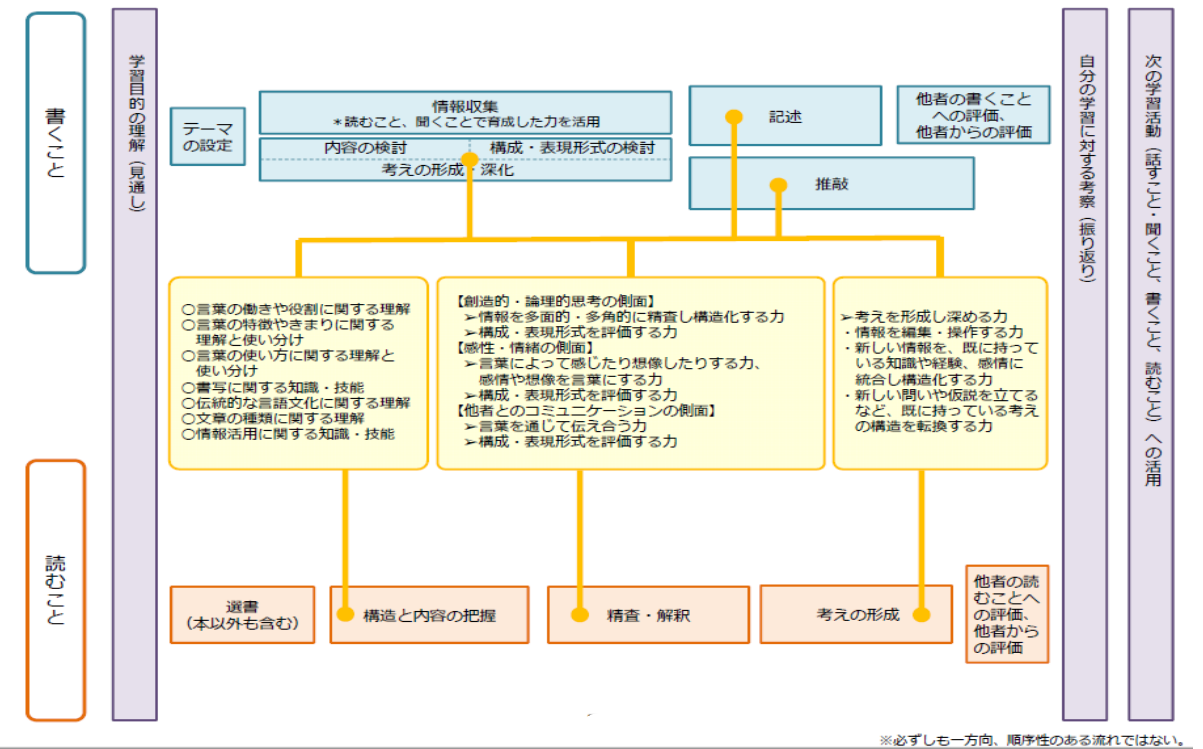
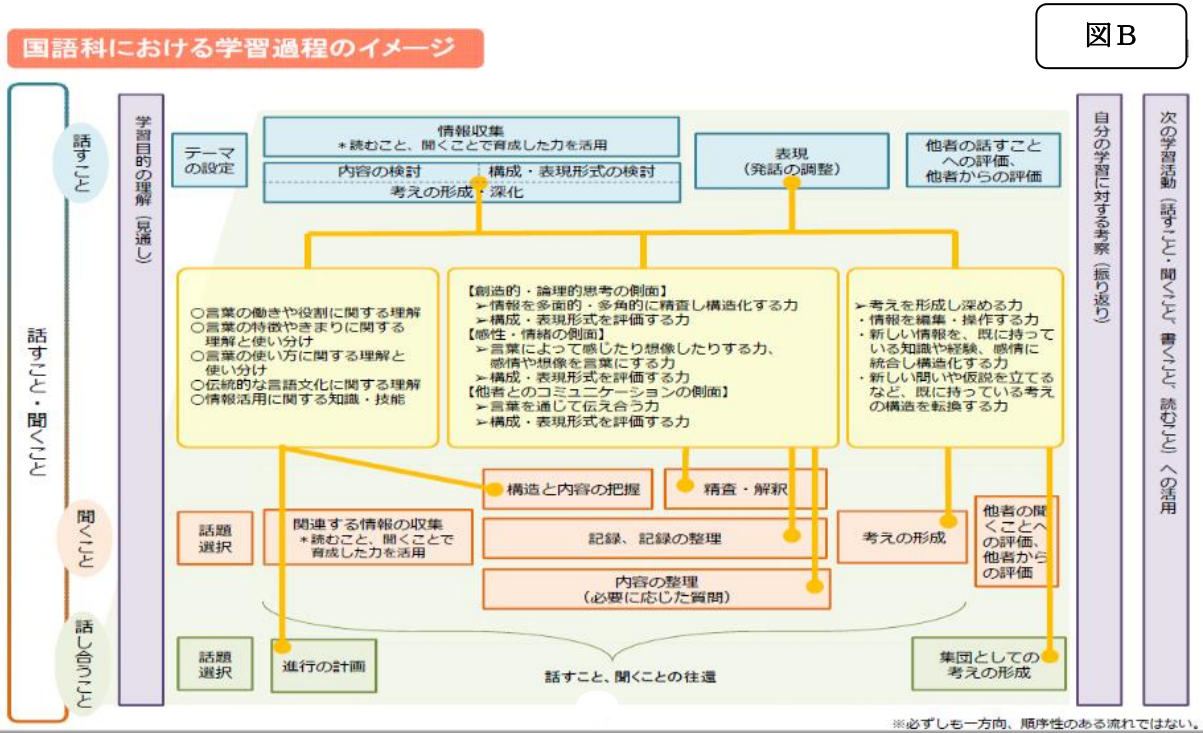
### 言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ

図A



上記は、言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージです。これまでの国語科の課題であった、ただ活動するだけの学習にならないように、「考えの形成」に向けた活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかについて整理されています。

このような言語能力の働く過程の整理を踏まえ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域における学習活動では、資質・能力がどのように働いているかを次のように示しています。



中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」 (平成 28 年 12 月 21 日) より

## 6. 「単元を構成（デザイン）」する

国語科において「単元を構成（デザイン）する」には、前述の学習過程の明確化や、「考えの形成」の重視を意識することが大切です。そして、「考えの形成」を通してどのような資質・能力の育成を図るのかを具体化します。

### 「単元を構成（デザイン）する」とは

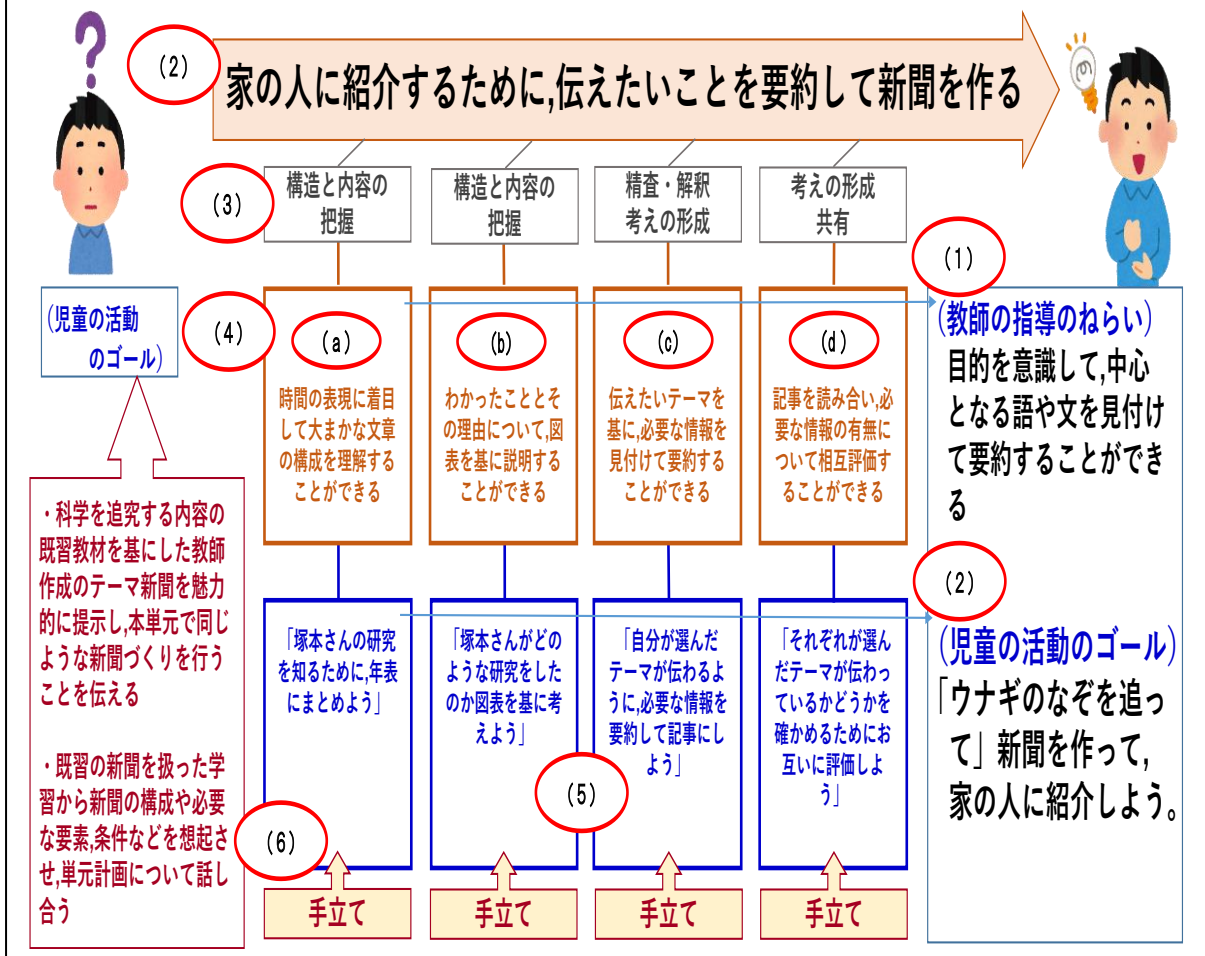
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める上で、まず「単元のねらい」を設定したり、「言語活動」を単元の中に位置付けたりします。次に、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、児童が学習を見通したり、振り返ったりする場面や、対話する場面をどこに設定するか、などの視点をもって、単元を構成（デザイン）していきます。

下記の例は、考えを形成していく学習過程をイメージしながら単元を構想したものです。この構想ができるまでの手順を示していきます。

### ～ 単元の構成（デザイン）例 ～

## 学習過程を基に、単元（各時間の目標）を構想する

例) きょうみをもっとところを中心に、しょうかいしよう（「ウナギのなぞを追って」塚本勝巳, 光村図書4年下）



### (1) 扱う単元や教材における「目標」の設定

学習指導要領解説（国語編）や、教科書に関する資料を参考に「目標」を捉えます。扱う単元や教材の領域、学年を踏まえて考えます。

上記の例では、(1)の教師の指導のねらいにあたり、領域は「読むこと」、学年は「第4学年」であることから設定されています。

「読むこと」（説明的な文章の精査・解釈について）

	1・2学年	3・4学年	5・6学年
「読むこと」 （説明的な文章） 精査・解釈	文章の中の重要な語句や文を考えて選び出すこと。	<u>目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。</u>	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

### (2) 「児童の活動のゴール」の設定

設定した目標に向けて、有効な学習活動を設定します。上記の例では(2)にあたります。児童が目標とする力を身に付けることができるものであるか、単元や教材を通して主体性や見通しをもって学習に取り組むことができるものであるか、について考えます。

また、学習活動の設定に際しては、学習指導要領解説（国語編）にある「言語活動例」を参考にします。

\* 次の(3)と(4)については、学習指導要領解説（国語編）に加え、

図A「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ」や

図B「国語科（3領域）における学習過程のイメージ」を参考にします。

#### (3) 考えを形成していく「学習過程」

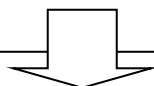
児童が、考えを形成していく学習過程を設定します。上記の例では(3)にあたります。扱う単元や教材の領域の指導事項を踏まえて考えます。

「読むこと」の指導事項

構造と内容の把握     精査・解釈     考えの形成     共有





#### (4) 各学習段階における「児童が身に付ける力」の設定

上記の例では(4)の(a)～(d)にあたります。学習活動ありきとならず、学習内容が高まるように、それぞれの指導事項に示されている内容や、図A「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ」、図B「国語科における学習過程のイメージ」を参考に、各学習段階において児童が身に付ける力を明確にします。





それぞれの指導事項に示されている内容や、図A「言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ」、図B「国語科における学習過程のイメージ」を参考にすると…

例（４）の（a）～（d）の設定について		
<p>（４）の（a）   時間の表現に着目して大まかな文章の構成を理解することができる。</p>		
構造と 内容の 把握	指導事項より	段落相互の関係に着目しながら、…（省略）。
	図Aより	文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係）
	図Bより	文章の種類に関する理解
<p>（４）の（b）   わかったこととその理由について、図表を基に説明することができる。</p>		
構造と 内容の 把握	指導事項より	考えとそれを支える理由や事例との関係などの関係について、叙述を基に捉えること。
	図Aより	文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係）
	図Bより	文章の種類に関する理解
<p>（４）の（c）   伝えたいテーマを基に、必要な情報を見付けて要約することができる。</p>		
精査・ 解釈 考えの 形成	指導事項より	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。
	図Aより	情報を多面的・多角的に精査し構造化する力
	図Bより	情報を多面的・多角的に精査し構造化する力
<p>（４）の（d）   記事を読み合い、必要な情報の有無について相互評価することができる。</p>		
考えの 形成 共有	指導事項より	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、…（省略）。
	図Aより	新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
	図Bより	新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力

#### （５）各学習段階における「児童の目標」の設定

各学習段階において、児童の目線に立った目標を設定します。児童が各学習段階において力を身に付けるとともに、主体的に学習に取り組み、活動のゴールに向かっての見通しをもちながら学習を進めることができるものであるかを考えます。上記の例では（５）にあたります。

#### （６）単元や授業における「手立て」の設定

児童が学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるような導入の工夫や、児童の対話的で深い学びや、身に付ける力の育成につながる手立てを考えます。上記の例では（６）にあたります。

## 7. 目標や内容の「系統性」

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』において、各学年の目標がふたつの学年のまとめりごとに示されています。そこで、**系統性**のある指導を行います。

### (1) 目標


下記のように、学年に応じた目標も設定されています。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
知識及び技能	(1) 日常的に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常的に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	(1) 日常的に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### (2) 目標の系統性

【例】「読むこと」（説明的な文章の精査・解釈について）

	1・2学年	3・4学年	5・6学年
「読むこと」 (説明的な文章) 精査・解釈	文章の中の重要な語句や文を考えて選び出すこと。	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

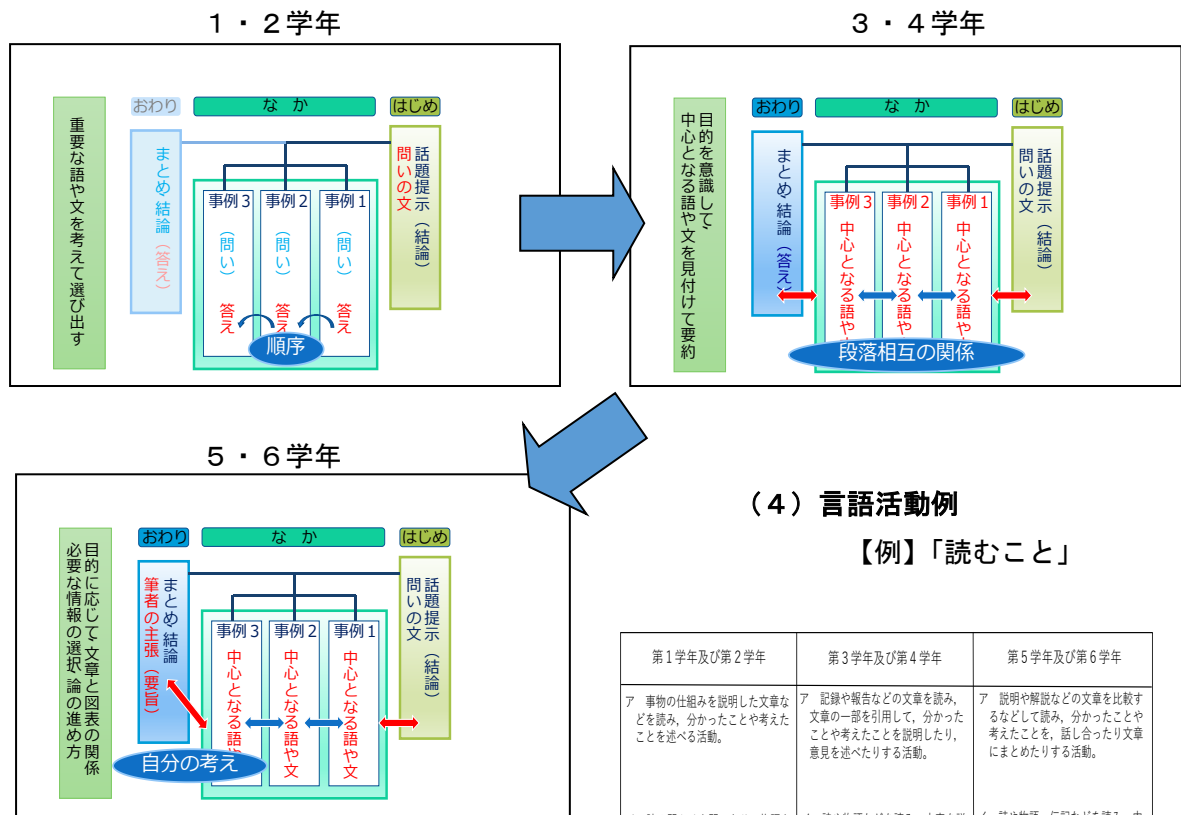


各学年の目標がふたつの学年のまとめりごとに示されており、発達段階に応じて、既習内容を活用しながら、系統性のある指導を行うことが求められています。系統性については、小学校に限らず、義務教育の最終学年である中学校3年生の生徒の姿までイメージしておく、今指導すべき内容が見えてきます。

上記の目標に準じた学習内容のポイントを図示すると、以下のようになります。

### (3) 内容の系統性

【例】「読むこと」(説明的な文章の精査・解釈について)



### (4) 言語活動例

【例】「読むこと」

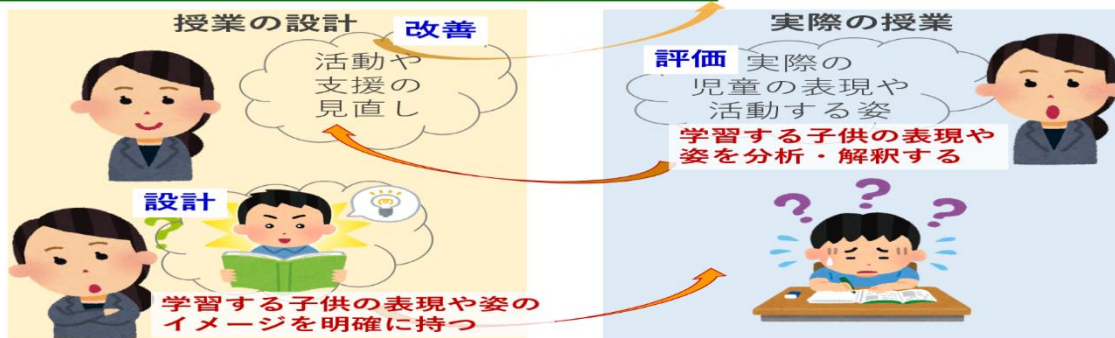
第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。	ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。	ア 説明や解説などの文章を比較するなど読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。
イ 読み聞かせを聞いたり、物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。	イ 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことを伝え合ったりする活動。	イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。
ウ 学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。	ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。	ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

各領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」  
「読むこと」において言語活動例が示されており、  
言語活動を通して資質・能力の育成を図ります。

## 8. 「学習評価」と「授業改善」

授業を設計することと、児童の学習内容を評価することや、授業を改善していくことは表裏一体です。これらに関連付けて考えることが大切です。

### 授業の設計と評価・改善のポイントについて

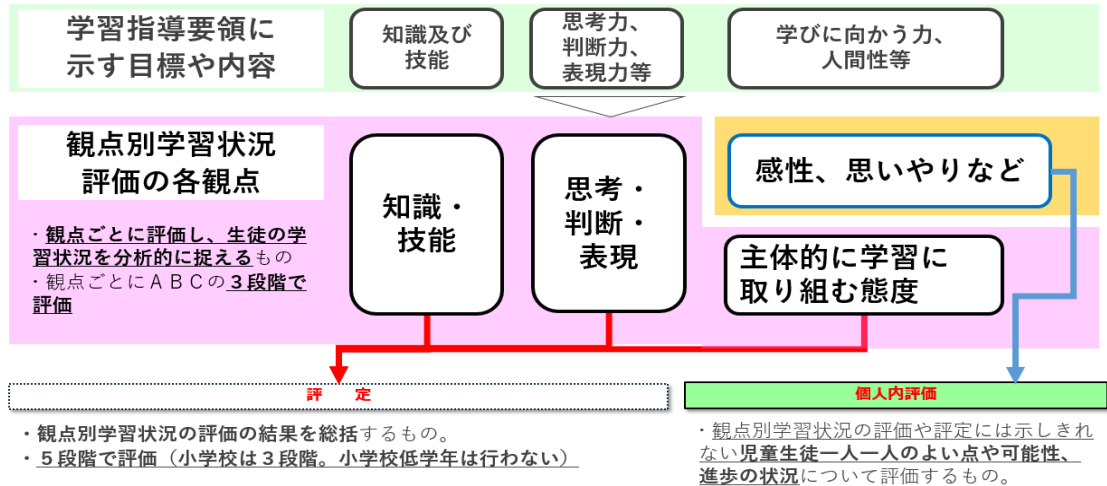


- まずは、授業で学習している子供の表現（内容）や学習する姿（学び方）について明確にイメージしながら、授業を設計しましょう。
- 実際の授業での子供の発言や姿を分析・解釈（評価）しながら、その場で（授業後に）、活動や支援の見直し（改善）をしましょう。

## 授業の設計と評価・改善のポイントについて

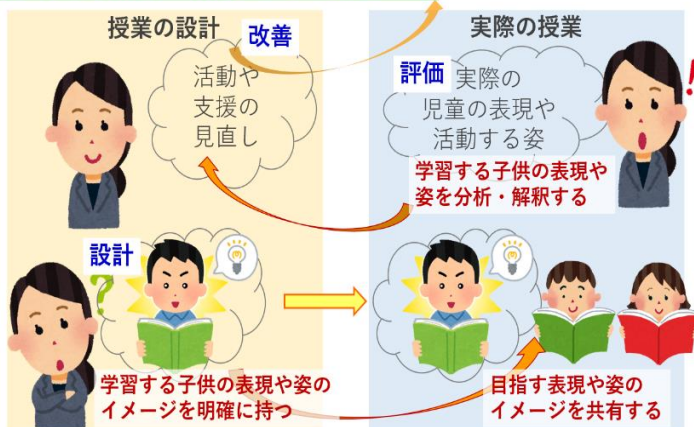
## 各教科における評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



上の図は、各教科における評価の基本構造をまとめたものです。それぞれの観点については、総合して評定として示すもの、個人内評価として示すものを十分に理解して適切に評価を行っていくことが重要です。（「主体的に学習に取り組む態度」については、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と観点別学習状況の評価にはなじまず、個人内評価等を通じて見取る部分があります）。

## 授業の設計と評価・改善のポイントについて



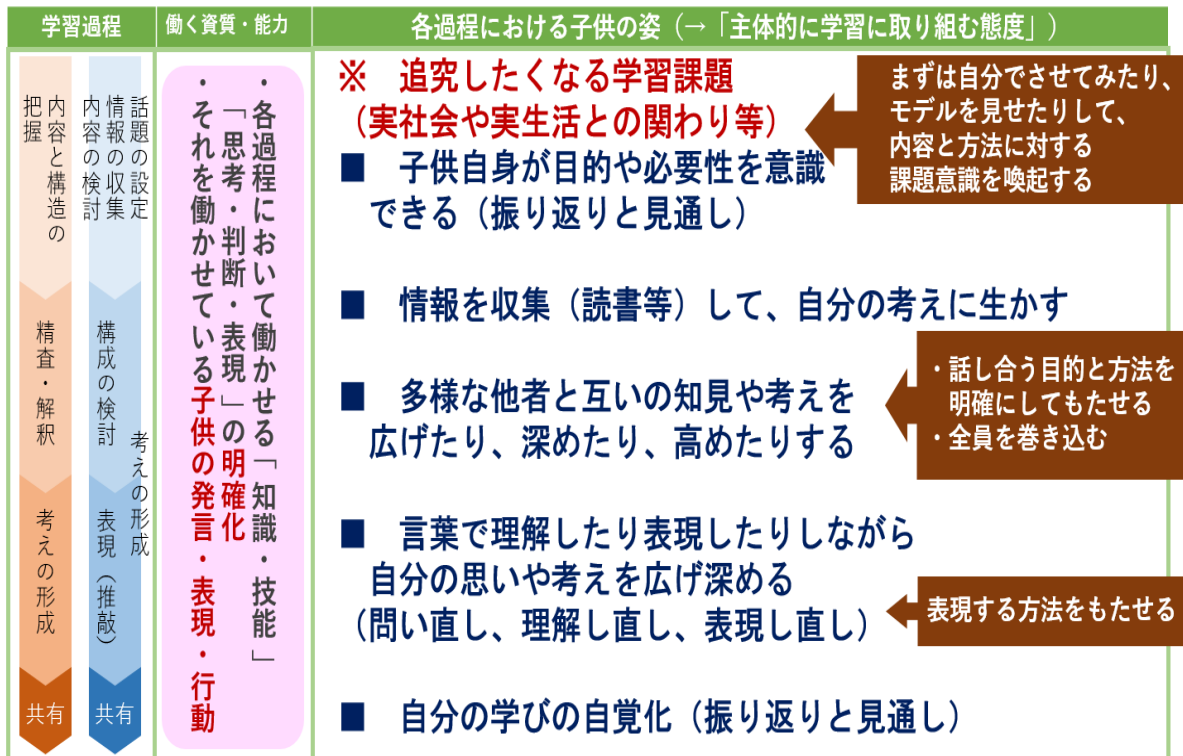
事前に評価をどのような方針で行うのかを児童に示し、共有しておくことは、評価の妥当性・信頼性を高めるとともに、身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージをもたせる観点からも不可欠です。

また、自らの学習の見通しをもたせ、自己の学習の調整を図るきっかけとなることも期待できます。

授業で学習している子供の表現（内容）については、学習過程において働くそれぞれの資質・能力について具体的に「子供の言葉」で考えていくとよいでしょう。

## 授業の設計と評価の観点

## 授業の設計と評価のポイント



■各学習過程において子供が働かせる「知識・技能」や「思考・判断・表現」を『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』（文部科学省、平成29年7月）を基にしながら設定します。その際、それぞれの過程のねらいに応じて「どのような場面のどのような発言・記述等の表現が子供から出されていれば、何を理解したり考えたりしていることになるのか」について、具体的な「子供の言葉」でイメージしておくことが大切です。

■「主体的に取り組む態度」として、その単元における各過程で、子供が自分の学習状況を把握し、教師の指示によってではなく、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、粘り強く取り組む姿について具体的な「子供の姿」でイメージしておくことが大切です。

■子供自らが活動できる（考えたくなる、考えざるを得なくなる）ようにするために、教師がどのような手立て（支援）を行っていけばよいかを考えましょう。

授業では、上のようなイメージが実現されているかどうかを判断し、その原因について分析・解釈して、その場で（授業後に）改善していきます。

～ 評価規準の設定について ～

下記のように、学習指導要領の「2 内容」を基に「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。文末表現については、知識及び技能が「～している」、思考力、判断力、表現力等が「～している」、主体的に学習に取り組む態度が「～しようとしている」になります。

